

ボランティア通信

～松本中学校～

目次：

生徒に「聞く」こと	自治行政学科4年 井上 恵理
1人ひとりと向き合う	経営工学科3年 神代 正太郎
これから	人間科学科4年 落合 宏弥
実際に現場で教師と生徒を見て	電気電子情報工学科4年 波々伯部 義樹
学ぶ姿勢を忘れない	英語英文学科3年 藤木 仁美



生徒に「聞く」こと

自治行政学科4年 井上 恵理

松本中学校で社会科のアシスタントティーチャー（以下AT）を始めて1年半が過ぎました。現在は、毎週水曜日の午前中にATをさせていただいています。昨年度は不登校生徒の支援等をしていましたが、現在は社会科の授業での支援をさせていただいています。

授業では、学習についていけない生徒の補助だけでなく、お喋りしている生徒や居眠りをしている生徒に注意することもあります。「静かにしよう」「黒板を写そうよ」と声をかけます。私の注意を聞き入れる生徒もいますが、「うるさい」「どっか行け」、または無視という反応の生徒もいます。段々、声をかけてもあまり効果が無いと感じるようになり、生徒との距離が広がっていくような気がしてきました。生徒とどう接すれば良いか悩み、大学の先生に相談しました。そこで、自分は「声をかければすぐに効果がある」と思い込んでいたことに気づいたのです。生徒は1人ひとり異なる。成長や変化の速度もそれぞれ違う。相談した次の週から、このことを頭に入れて生徒と接するようになりました。

授業中お喋りしている生徒や、授業と関係のないことをしている生徒に対して、注意ではなく、「何の話？」「何を持っているの？」と聞くようにしました。すると、「ディズニーランドの話」「手ピカジェル持っているの」という答えが返ってきたのです。今までのような拒絶反応ではなく、生徒自身に関する話が返ってきました。「聞く」ことでは生徒の行動をすぐに改善できません。しかし、生徒との関係を少しずつ変えることができました。実習が終わり、3週間ぶりに松本中学校に何うと「先生久しぶり！」と声をかけてくれる生徒が何人かいました。今まで、授業外で生徒から声をかけられることはあまりありませんでした。今回声をかけてくれた生徒は、私のことを覚えていて、久々に松本中学校に来たことを気付いてくれたのです。声のかけ方を変えただけで、生徒からの見方、関わり方も変わることを学びました。

これから生徒と接するときには、「聞く」ことを大切にします。生徒は少しずつ変わっていくので、すぐに結果を求めないよう心掛けます。生徒の話や行動を受け入れ、ゆっくり、少しずつ、生徒との関係を良く

ボランティア通信～松本中学校～

していきたいと思います。週に1回で、毎回同じ学年や組とは限らないので、同じ生徒に毎回会えるわけではありません。だからこそ1回1回の関わりを大切に、生徒をより深く理解できるようにしたいと考えています。

「聞く」ことで全ての生徒が答えてくれるわけではありません。まだ拒絶的な反応を示す生徒もいます。こういった生徒と会話できるようになることを目指して「聞く」姿勢や技術を高めていきたいと思います。松本中学校の先生方が、いつ、どこで、どのような表情で、どのような声のかけ方をしているのか学び、自分の関わり方を向上させていきます。先生方の生徒との関わり方を自分の中に取り込み、私も生徒とよりよい関係を作っていけるようにしたいと思っています。

1人ひとりと向き合う

経営工学科4年 神代 正太郎

昨年5月から松本中学校でAT活動を始めて1年がたちました。生徒たちに実際に関わることで気がつくこと、先生方の動き、地域とのつながり、など多くのことを学んでいます。また、昨年度後半は取り出し授業の生徒に対して、共にAT活動を行なっている学生が曜日交代で授業する経験もしました。今年度からは、新たに「特別支援」という形で松本中学校でも体制を整え、別室登校の生徒も対象に支援を進めています。

昨年度の取り出し授業、そして今年度は特別支援として関わっている生徒のひとりとは外国籍です。数学担当の先生から数学と英語と国語の3教科で取り出し授業を行いたいという提案があり、活動日にその教科があるときは、私と生徒の一对一で授業を行なっています。彼の学力に目を向けてみると数学では小学校の九九、英語はアルファベットを書くところから始める必要がありました。本人が高校進学を希望しているため、受験のための中学数学と並行して小学

校算数の復習を行なって授業を進めています。現在も数学の授業での取り出し授業と大学での学習支援ボランティアでその生徒とは関わっていますが、正直なところ学力に関して大きく伸びた点はありません。高校へ進学したいという思いはあるものの、高校に対するイメージが漠然としすぎていることと、情報が少ないために勉強への意識が持てていないように感じます。そこで既に高校に通っている彼のお兄さんの話をしたり、勉強の時も入試問題の簡単な大問を解いてみたり、入試や高校生活へのイメージが持てるように意識しました。

高校進学への思いが具体的に変わったかどうかは分かりませんが、ひとつだけ変わったと感じたことは、彼がテストの答案に答えを書くようになったことです。今まではどの教科のテストでも答えを書かずに提出していたのですが、今年度の最初のテストでは数学と英語で答えを書いて提出していました。結果はどうであれ、解答せずに0点をとっていた前回までより彼もかなり満足していました。一般的に見れば0点から数点上がっただけでもかもしれませんが、九九、アルファベットそして何より日本語の読み書きが苦手だった彼にとっては大きな変化です。そして私自身、テストの結果や学校生活のことを逐一話してくれる、そして成長できた喜びを素直に見せてくれる中で、彼と私の信頼関係というものを感ずることができました。

将来自分が教師になった時にも、学級に外国籍の生徒やそれ以外の様々な問題を抱えた生徒がいることが考えられます。ボランティア活動の中でこのような生徒もいるということを知れたこと、その生徒と関わっていることは非常に貴重な経験です。生徒1人ひとりをきちんと見て把握し、対応できる能力が教師には絶対的に必要なのだと感じました。今後もAT活動を続けていく中で、より多くの生徒と関わり、向き合い、幅広い視野そして生徒の小さな変化に気が付ける観察力を養っていきます。

ボランティア通信～松本中学校～

これから

人間科学科3年 落合 宏弥

昨年度の6月から、松本中学校で保健体育科のATとして活動させていただいています。活動を始めてもうすぐ1年が経とうとしています。

昨年度は、授業のときに生徒全員とコミュニケーションをとることを意識して活動してきました。今年度は、加えて運動が苦手な子や体育への参加意識が低い子へのアプローチを増やすことを目標にしています。授業の中で積極的に質問してくる生徒は、ほとんどが運動が好きな子や得意な子です。しかし、その他の生徒が何も疑問を持っていないかというそうではないと思います。生徒一人ひとり、何かを感じ何かを思っています。授業の中でこんなことがありました。体育の実技書をずっと見ていだけで、実際にやっていない生徒がいました。「どうした？」と聞くと実技書を指さしながら「どうやっていいかわからない」と答えました。「分かった、一緒に練習しよう」というと、うなずいてやり始めました。そして、その技ができるようになりました。次の週に、またその生徒がいるクラスの授業がありました。ぐるぐる歩き回っていると、その生徒が近寄ってきて、実技書を指さして「この技教えて」と言ってきたのです。先生に質問するのが恥ずかしかったのか、できるようになったのが楽しかったのかは分かりませんが、その生徒が質問してくれたことに、私は嬉しくてにやけてしまいました。私の目指す授業には、生徒全員が積極的に授業に取り組むというのがあります。こういった活動を増やしていく中で、たくさんの生徒と話し、生徒が何を求めているのかを聞き、今後の活動にも生かしていきたいです。

目標の二つ目は、先生の動きを見て学ぶ

ことです。活動が1年を経とうとしていることもあり、昔に比べていろいろなところに注意を向けられるようになったと思います。何か問題が起こったときや、何気ない日常生活での生徒とのやりとりなどを最近では意識して見るようにしています。何かあれば先生にすぐに伝え、どのような動きをするのかを聞くようにもしています。先生の一つひとつの行動や声かけが勉強になっています。

本当に貴重な経験をさせていただいていると感じています。一回一回が大切な時間であり、その時間を無駄にしたいはありません。ただ、漠然と何かをやるのではなく、常に目標を意識して活動します。スポンジのような吸収力で吸収し、常に学び続ける姿勢を持ち続けます。今後の、松本中学校での活動も全力でぶつかって楽しく取り組みたいと思います。



ボランティア通信～松本中学校～

実際に現場で教師と生徒を見て 電気電子情報工学科4年 波々伯部 義樹

私は去年の3月から松本中学校で週1回アシスタントティーチャーをさせていただいています。松本中学校は、廊下ですれ違うと挨拶してくれる元気で明るい生徒が多い学校です。

活動内容は、数学の授業の補助です。計算などの問題演習をしているときに、解き方が分からない生徒に対してアドバイスをしています。主に1年生の数学の授業に参加させていただいています。また、私が教壇にたったときのことを考えながら、先生が前で授業をしているときに後ろで生徒の様子を観察します。先生の発問の仕方やしぐさで生徒がどのような反応をするのかを観察しています。

私がこのボランティア活動を始めたきっかけは、先輩に「実際に現場の空気を感じた方がいいよ」と聞いたことと現場での授業の風景を見たいということでした。まだ活動を始めたばかりですが学んだことが多くあります。生徒への質問の投げかけ方、先生の目線、間の取り方など、実際に先生と生徒を間近で見ていると本当にたくさん学ぶことがあります。

私の目標は、生徒の顔と名前を覚えることです。そして最終的な目標は、生徒が気軽に話しかけることのできるアシスタントティーチャーになることです。そのために、生徒との距離を縮められるよう行動をしようと心掛けています。生徒が声をかけてくることもあります。自分から話しかけなければほとんど相手にされません。特にそれを感じたのが授業中です。例えば、私が巡回して生徒の様子を見て回っていると、ノートを見られないように隠すような行動をする生徒います。そのときに、「できた？」と声をかけても「大丈夫」や「できてる」と素っ気なく返答されて、生徒との距離を感じました。私の生徒への接し方と質問の仕方に問題があると思い、先生や友人に相談しました。先生や友人から「生徒のノートをきれいに書けているね」のように生徒の活動を褒めてから生徒の指導をするようにしたらいいよとアドバイスをいただきました。それを参考に自分なりのやり方で生徒との距離を少しずつ縮められるよう行動していこうと思っています。

松本中学校での活動を通して、私も教育の現場に立つ一人だと先生と生徒から見られているということを感じています。授業中に「先生、先生」や「先生これどうやるの？」と先生と呼ばれることにすごい責任を感じます。アシスタントティーチャーとして活動してみて改めてその重さを感じました。また、人間関係の構築

の必要性をひしひしと感じました。誰に聞けば必要な情報を得られるのかわからず、何もできずにいたことがありました。今後は数学を担当している先生だけではなく、ほかの教科の先生とも積極的に関わりを持てるよう行動しようと思っています。

最後に、私自身まだまだ未熟で学ぶことが山のようにあり、最終の目標がまだ達成できていません。それを達成できるように、これからもアシスタントティーチャーとしてできる限り机間指導のときや休み時間に生徒と接する機会を多くしていきたいと思っています。



ボランティア通信～松本中学校～

学ぶ姿勢を忘れない

英語英文学科3年 藤木 仁美

私は昨年度の2月から松本中学校でATをさせていただいています。悔いのない大学生活にするために、興味を持ったことは積極的にやるということをモットーにしています、その一つがATでした。現場での学びは将来絶対に役立つはず、と期待を膨らませていました。

松本中学校はとても活発な生徒が多いという印象を受けました。明るく元気にあいさつをしてくれる生徒や、授業で積極的に発言する生徒たちを見て感心しました。その反面、元気が良すぎて授業中廊下を走り回ったり、大きな音を出したりする生徒もいて最初は驚きました。私は田舎の大人しい中学校でのんびりと学校生活を送ったので、自分の知らない中学校の姿を知ることができたことはひとつの大きな学びです。

ATをしていて、どのような声掛けをすれば授業に集中できるのかという疑問を持つようになりました。単に注意するだけでは誰も聞いてくれません。まずはその生徒がどんな子なのか観察をし、なぜ授業を受けないのか探りました。授業内容がわからなくて投げたしているというよりは、できるからやらなくても良いと思っている生徒の方が多いのではないかと感じました。問題を解けばよくできています。文法訳読ではなく、英語の授業は英語で行い、生徒が英語を使える授業が理想だと考えます。塾で既に勉強したから授業を受ける必要なんてないと思われなような、学校でしかできない授業を行うことがプロとしての教師に求められることだと思います。授業分析を行いながら、自分だったらどんな授業をするか常に考えて、生徒の興味をひきつける活動は何かを探りたいと思います。今自分にできることとして、どんな声掛けをすればよいか、先生方を見習いながら試行錯誤したいです。

様々なクラスを回る中で、クラスの雰囲気の違いを面白く感じました。同じ授業でもリアクションが異なり、クラスごとに活動に変化をつけることも必要だと学びました。感性が違えば興味を示すことも違ってきます。それを熟知した上で授業を作ることが大事になってくると知りました。また、先生方の授業を見て、生徒たちの活動への取り組みや姿勢を感じ取ることで、効果的な活動とはどのようなものかを考えるきっかけになっています。これからも生徒たちの様子を敏感に観察していきたいです。

私はATをする上での目標として、生徒に1日8回以上ありがとうと言ってもらうことを掲げました。8回という壁は想像以上に厳しいですが、積極的に授業の補助に入り、効果的な声掛けができるようにこれからも頑張っていきたいです。学び続ける教師になるために、今は学び続ける学生として現場でたくさんのかを学び、その学びを将来に生かしたいと考えています。



ボランティア通信～松本中学校～

発行日：2015年7月17日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL：045-481-5661(内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL：http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/